

くどう市長と語ろう！

ふれあいトーク

(第23回)



日 時 平成30年7月18日(水) 18時30分～

場 所 南地区活動拠点センター

《開催・実施内容》

- ◆ 参加者 25名 （男性15名 女性10名）
- ◆ はじめに、工藤市長から挨拶と近況報告を行いました。

1. 交流人口の拡大について

稚内市の経済を維持するために関心を高くして取り組んでいることは、交流人口の拡大です。人が減るということはいろいろな意味で経済活動が停滞します。皆さんの生活に直接関係しますから、経済規模・経済活動を維持するために、今、できることはたくさんの方にお越しいただき、経済活動をしてもらうことです。この街へ来てもらうには、交通手段の整備という課題があります。また、札幌や東京からは遠く、物理的なハンディを乗り越えないと交流人口が増えない悩みがありますので、改善に向けて一生懸命に取り組んでいる状況です。

2. 北海道内における空港民営化について

国の動きとして、北海道内にある国管理空港は新千歳・函館・釧路・稚内の4か所、市管理空港は旭川・帯広の2か所、道管理空港の女満別を加えた7か所の空港の運営を一括して民間企業に業務委託をする方向で作業が進んでいます。今後、もっと稚内市のネームバリューをあげることにより、稚内空港が栄えていき、交流人口の増加に繋がっていきたいと考えています。

3. 稚内港の整備について

稚内港を整備したことにより、大きい船が接岸できるようになりました。我々が目指していることは10万・11万トンクラスのクルーズ船をもっと呼び込むことです。本州には大きい港がたくさんありますが、その中の1つとして稚内港も肩を並べていき、多くのお客さんを呼び込むことにより、まちを盛り上げていきたいと思っています。

4. 風力発電について

風力発電に係る整備については、稚内市に億単位の税金が入る事業になりますので、積極的に展開していきたいと思っています。我がまちの人口が減っていますが、なんとか経済を守り、このまちの将来についてやるべきだと思うことについては取り組んでいきます。これからいろいろなお話が出てくるかと思いますが対応していきたいと考えています。

◆ふれあいトークで話し合われた内容は、以下のとおりです。

1. 『宗谷線の存続と利便性の高いダイヤの見直し』について
2. 『医療体制の整備、充実』について
3. 『避難場所①、②、③、④』について
4. 『クサンル川の護岸整備』について

1. 『宗谷線の存続と利便性の高いダイヤの見直し』について

●参加者からの意見、質問

《質問者：緑第二町内会関係者》

一昨年のJR北海道単独で維持困難な路線・線区の発表以来、宗谷線存続のための市や関係者の取組、努力は承知しており、我々市民も積極的に関わっていくべきだと考えており、協力もしていきたいと思っています。

旭川・札幌方面行の特急列車についてですが、ダイヤ改正で、朝の稚内駅発の時刻が早まり、帰りの稚内駅着最終列車の到着時刻が遅くなっています。市立稚内病院から名寄・旭川・札幌などの病院を紹介してもらい、定期的に通院している高齢者も多く、日帰りする場合には体力的に厳しい状況です。

市民の健康問題にも関わることであり、従前の発着時刻になるよう働きかけをお願いします。また、市長の行動が市民にもわかるように広報に掲載してほしいです。

●市長の発言

JR 北海道は少ない車輛でどこからも支援がない状況で、知恵を使ってできる限りの努力で現在のダイヤ編成をしています。

いろいろな交渉過程でわかったことであり、厳しい経営状況のなか、線路をまず残す方向で動いています。残すからには利用しやすいダイヤに向けて、当然努力をしていかなければいけないと思っています。交渉経過については、できるだけ皆さんに情報発信をしていきたいと思っています。

■ 検討状況など 【担当・・・まちづくり政策部地方創生課】

宗谷線存続と利便性の高いダイヤへの見直しについては、宗谷本線活性化推進協議会を中心に議論を行い、JR北海道をはじめ関係方面へ継続して要請していきます。

また、JR北海道では、線区別の行動計画（アクションプラン）を今年度内に策定することとしており、その計画の中にダイヤ改正を含めた利用促進策や経費削減などについて整理することとしています。

今後、宗谷線存続に向けた取組については、機会を捉えながら市民の皆様へ情報提供いたします。

2. 『医療体制の整備、充実』について

●参加者からの意見、質問

《質問者：緑第二町内会関係者》

市立稚内病院には循環器の常勤医が配置されておらず、急性心筋梗塞や虚血性心疾患の場合には、名寄市立総合病院へ搬送されることとなりますが、残念ながら間に合わずに亡くなったケースもあると聞いています。

市長や病院関係者の努力は承知していますが、市民の健康を守るため、循環器の常勤医が早期に配置されるよう、医大などへの働きかけを継続していただきたいです。

●市長の発言

国は相対的な医者は増えているが、問題なのは偏在していることだと言っています。北大、旭川医大に医師の派遣についてお願いをしていますが上手くいかず今日に至っています。地域の実情を理解してくれている教授がいますので、我々はそこを頼りにしています。

北海道にも、地域医療の一環として医師を連れてきていただきたいと、必死にお願いをしているところです。

皆さんには、辛い思いをさせていることを承知しております。引き続き、良い返事がもらえるよう努めてまいります。

■ 検討状況など 【担当・・・市立稚内病院庶務課】

医師の派遣についてですが、毎年、市長をはじめ病院事業管理者、病院事務局長が、派遣元である北海道大学、旭川医科大学の各診療科の教授を訪問し、派遣要請を行っているほか、北海道の医療対策部門においても同様に派遣要請をしているところです。

研修医については、ここ2年続けて3名の医師が市立稚内病院を選んでくれています。若い医師が稚内で学び、またいずれ常勤医師として戻ってきてもらう事を望んでおります。循環器内科をはじめとした常勤医不在診療科については、引き続き大学等への要請を行うなど、少しでも早い時期に医師を招聘し、皆様の不安を解消し、安心した医療が提供できるよう努めてまいります。

3. 『避難場所①』について

●参加者からの意見、質問

《質問者：ひかり町内会関係者》

私の住む町内では避難場所として指定されていた旧大谷高校がなくなりましたので、現在は避難場所がありません。南地区活動拠点センター、南小学校、みはらし会館が避難場所になると思いますが、指定は受けていません。また、それ以外に緑公園を整備するような話を新聞等でみておりますが、避難ができる施設はいつ頃出来上がりますか。

●吉田防災対策専門官

避難場所ですが、現在は、緑4、5丁目に関しては指定している公共施設等がない状況です。場所に限って申し上げますと、緑公園が指定の避難場所ということになってはいますが、長期に及んで避難生活はできませんので、まずその場所に避難していただき、そのあとの状況によって南活動拠点センター、学校の解放になります。

旧大谷高校の計画についてですが、30、31年度に施設を整備して、32年度に施設周辺の外構工事を行い、32年5月に施設の共用開始という予定であり、建物が使用できる状況になりましたら、すぐに指定をかけて皆さんが安心して避難できる場所とします。

■ 検討状況など 【担当・・・総務部総務防災課】

現在、本年2月に全戸配布した津波ハザードマップの説明会を地域の協力を得ながら、順次、行っています。

その中で、各地域の避難経路、避難場所などについてもお話しして、意見交換を行いながら、地域ごとの避難計画作成支援に取り組んでいます。

3. 『避難場所②』について

●参加者からの意見、質問

《質問者：緑第二町内会関係者》

数年前に水害がありました。南地区活動拠点センターに入る道路が水没のため入れませんでした。稚内市が認める避難場所だったのでしょうか。

西日本のような川が氾濫までとは言わないですが、大雨が降った際に南地区活動拠点センターは水に浸からないか不安です。

市は、このことを確認した上でここを避難場所としているのかを緑地区に住む住人として聞きたいです。

●市長の発言

今、明快な回答が出せないのので、整理してから所管課から説明させます。東日本大震災、西日本の災害のときを想定し、教訓にして様々な事をやっていますが、これらの話については少し時間をください。

■ 検討状況など 【担当・・・総務部総務防災課】

避難所については、稚内市は土砂・地震・津波の災害それぞれに対応した建物を指定しています。

南地区活動拠点センターは、この3つの災害に対応していることから避難所の指定をしています。

河川の氾濫については、現在クサンル川改修工事が行われていることや洪水ハザードマップが未策定のため、どのくらいの雨量でどうなるのかはわかりません。

このデータが判りましたら、お示しできると考えています。

3. 『避難場所③』について

●参加者からの意見、質問

《質問者：緑ヶ丘町内会関係者》

緑ヶ丘町内まで津波が来ることはないと思いますが、その際は数多くの車が一斉に上がってくると思われます。

しかし、南中学校の入り口は過去に2回ほど土砂崩れを起こしており、災害時には南中学校にも上がっていけない可能性があります。この場合にはどういう対応するのか教えていただきたいです。

●土門総務防災課長

津波のハザードマップが完成し全戸に配布していますが、町内会は15ブロックに分かれていますので、これからより細かくブロックごとの避難経路、地域に則した避難等のお話をさせていただきます。

また、地域に入り地域ごとの避難計画を作ることは、町連協さんへお話をしております。今後、個別に各町内会の皆さんの声をお聞きしながら、実効性のある避難計画を作っていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

■ 検討状況など 【担当・・・総務部総務防災課】

地域によって地理的条件が異なるため、各地域で意見交換を行いながら避難計画を作成して、対応策を共有していきたいと考えています。

3. 『避難場所④』について

●参加者からの意見、質問

《質問者：南中学校関係者》

南中学校が避難場所になっていますが、冬場は雪が堆積するので南中坂の道幅は狭くなります。

冬場に災害が発生し、避難路等で事故があれば上がることができなくなりますので、除雪については細心の注意を払っていただきたいと思っています。

●市長の発言

先ほどもそうですが、しっかり参考にしたいと思います

■ 検討状況など 【担当・・・総務部総務防災課】

特に冬場については、道路幅が狭くなり事故が発生する恐れがあり危険を伴う箇所も存在します。

防災の観点からも、危険箇所を把握するとともに関係機関と連携し協力を得ながら、避難路等の安全な確保に努めていきます。

4. 『クサナル川の護岸整備』について

●参加者からの意見、質問

《質問者：大黒二町内会関係者》

以前、クサナル川の氾濫がありました。現在の河川の護岸の状態は両側とも膨らんでおり、いつ崩れるかわからない状況です。

昨年のような大雨が降った際に、護岸が崩れてしまう恐れがあるという話になりました。以前、この河川は道が管理していましたが、現在は市が管理している河川です。防災計画の中にしっかりと位置づけて手をつけていただきたいと思います。

●市長の発言

優先順位をつけながら事業に取り組んでいかなければならない事情がありますので、土木課においてどういう考え方をしているのか確認しながら我々としては少しでも前に進みたいと思っています。

今すぐに具体的な説明はできませんが、この件についてはしっかり土木課に伝えますので、どういう対応になるのか、もう一回検討させたいと思います。

■ 検討状況など 【担当・・・まちづくり政策部財務課】

当河川護岸の補修に関しましては、平成25年度に護岸の危険個所を調査し、その結果を踏まえ、「クサナル川補修計画」を立案しました。

現在はこの計画に基づき、平成26年度より下流部分から継続して護岸補修工事を行っており、今年度につきましては、緑6丁目（いのうえ花屋横）付近の護岸の劣化が進んでいることから、優先して補修を行っているところです。

今後も継続して護岸補修を行い、安全の確保に努めてまいります。

《終わりに工藤市長から》

本日は、様々なご指摘をいただきましたが、皆さんからご意見をいただく前に、職員と共にもっと地域に出向かなければならないということを変更して勉強させていただきました。ありがとうございます。

また、それぞれの地区にお邪魔させていただくこととなりますが、それを待つまでもなく、何かありましたら市役所へお話しいただきたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。



ご参加いただいた皆さんから、様々なご意見をいただき、活発な議論が交わされました。

お忙しい中、ご参加いただきましたことに、心から感謝申し上げます。
ありがとうございました。